

編集後記

『英學史論叢』第 11 号（通巻 31 号）をお届けする。査読を経た研究論考と研究ノート計 5 本とともに、昨年度開催された支部 30 周年記念例会における特別講話、講演、シンポジウムの記録を掲載した。英学史随想と、第 6 号以来久し振りとなる書評も寄稿していただいた。執筆者、査読者各位に心よりお礼申し上げたい。

中国・四国支部所属の佐光昭二先生が昨年度の日本英学史学会賞（豊田賞）を受賞された。先生の長年にわたる着実なご研究の成果を心よりお祝い申し上げ、私たちの今後の励みとしたい。受賞作『阿波洋学史の研究』については、顧問（相談役）の寺田芳徳先生による書評をご参照いただきたい。

紀要編集の責を担うようになって 6 号めとなる。年々書式の標準化が進み、執筆者から届く電子ファイルは全て、「ワード」というソフトウェアで編集可能となった。あらゆるものの「標準化」が望ましいかどうかは議論の分かれるところだ。ただ、編集にかかる事務作業は格段に楽になった。最大のメリットは、複数の執筆者から届く文書のページ番号を自動的につけることができる点だ。かつては、ページ番号を書いた小紙片を糊付けしていたのだから。

標準化の恩恵に浴している際に、新世代の「ワード」なるものが現れた。従来からの設定では読み取れないファイルの存在を知り、当惑した。無事に編集を続けることができたのは、新旧のソフトウェアをつなぐ「互換パック」のお陰である。新世代と旧世代、どちらがどちらに対しても常に開かれているとは限らない。双方の行き来をスムーズに仕切る「互換パック」の存在は不可欠である。学会の中で、そんな「互換パック」の役目を果たしたいと願うようになったは、私が「中」年に近づいたからだろうか。心はまだ「青」のままなのだ。

今回も、前担当の竹中龍範先生より編集上の貴重なご助言を賜った。印刷製本は引き続き(株)ホワイト印刷のお世話になった。厚くお礼申し上げたい。 (T.U.)

英學史論叢 第 11 号（通巻 31 号）（平成 20 年 5 月 24 日発行）
編集・発行者：日本英学史学会中国・四国支部（代表：竹中龍範）
発行所：県立広島大学 馬本研究室内
日本英学史学会中国・四国支部事務局
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562 番地
電話・ファックス： (0824) 74 - 1725 (直通)
e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp